

# 生存論破

緋影真央#無印

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

生存論破本編です。

主催に文才はありません許して下さい。

創作論破となります。

# 目次

0章0話ある二人の絶望前話 | 1



# 0章0話ある二人の絶望前話

- ▼希望プログラムを絶望プログラムに書き換えます。
- ▼書き換え完了。
- ▼未来機関職員五名の生存を確認。
- ▼未来機関職員五名の死亡を確認
- ▼黒幕の生存を確認。
- ▼黒幕の捕獲を確認。
- ▼元超高校級十六名の入場を確認。
- ▼error
- ▼error
- ▼error

カタカタと鳴らせていたキーボードの音が止み、エラーが出ている画面を見ながら少女は言う

「あはつとても素敵ですわねこれはとても絶望的すわ」

▼参加者の人数の変更を確認しました。

▼これより絶望プログラムを開始します。

プログラムが始動し、建物中の監視カメラが一斉に作動を始めた

彼女は次々と倒れていく元超高校級達を眺めながら

自分達が絶望として始めるゲームに心を躍らせながら彼が帰って来るのを待っていた。

「楽しそうだね」

何かを引きずる音と共に少年が全身を血で染めながら

自らも同じように笑いながら部屋に入ってくる

「勿論楽しいわ会長もでしょう?」

彼女は少年が連れてきた者の側に行く

キョロキョロと辺りを見渡して

「あれ?あの女は何処なの?」

と少年に尋ねていた。

少年は少し考えて

「あの希望、希望煩い奴は切り刻んである部屋に閉じ込めて置いたよ」

と、歪んだ笑顔で楽しそうに彼女に話す

「じわじわ死ぬなんてなんて絶望的なのかしらっあ、それより会長早く着替えますわよゲームが始まってしまいますわ！」

そう言い彼女は少年を連れて部屋を出ていく

残されたのは引き摺られてきた者のみ。

その者は画面に写る者を見てポツリと言う。

「希望は消えてない」と

.....

.....

.....

自己紹介パートは次回